



Gaiareport 2010

[堀場製作所 / CSR 報告書]





真の高品質企業へ挑戦し、 分析・計測技術で社会に貢献する

**分析・計測技術は
環境、健康、省・創エネルギーなど
生活の質向上に欠かせないツール**

HORIBAのステークホルダーの皆様をはじめ、一般の方々が日常生活のなかで、分析・計測ということ意識する機会は決して多くはないでしょう。しかし実は、私たちの暮らしにおいて、なくてはならない技術です。

例えば、世界の自動車メーカーは、次世代自動車の開発にあたり、クリーンなエンジンの研究を進めています。そこでは排ガスの測定やエンジン性能解析などが欠かせません。

また私たちの身近にある病院やクリニックでは、血球計数測定装置などによって健康状態や感染症の可能性などを数値で把握できます。数値に基づいた明確な根拠を示す初期診療の提供が可能になっています。

HORIBAの分析・計測機器は、環境保全や医療、研究開発など、非常に幅広い分野で活用されています。加えて、あらゆる機器製造プロセスにも導入され、産業の土台を支えています。このように技術や製品を通して、持続可能な社会の構築、人々のQOL(クオリティ オブ ライフ)の向上に役立てることは私たちの誇りであり、HORIBAのCSR活動の本質だと考えています。

"おもい"で未来を切り拓く

「Explore the future」のブランドメッセージの通り、その技術、製品で、常に未来の開拓をめざすHORIBAの社風は、「おもしろおかしく」という社是によって形づくられています。それは「世界一の技術を磨きたい」「より良い製品を届けたい」という"おもい"となって表れ、すべての行動のベースとなります。お客様からのご要望を真摯に受け止め、その期待に"おもい"で応える。そのなかで、私たちは自らの"創造力"に磨きをかけ、一步一步成長してきました。

企業文化をより揺るぎないものとして確立するために、私たちは独自に、意識と行動の変革活動「ブラックジャック・プロジェクト」を1997年から継続しています。世界中のHORIBAグループで700を超える活動がおこなわれ、そのどれもが前進する志に満ちており、経営の責任者として大きな手応えを感じています。

2010年、真の高品質企業へ

2010年は、これまで築いてきた企業文化やブラックジャック活動など独自のマネジメントを土台にして、品質向上に全力で取り組みたいと考えています。

まず、グループ全社方針を「真の高品質企業

への挑戦」とし、全部門でこれに取り組みます。製品・サービスの品質改善に特化したブラックジャック活動"Product Quality Improvement (P.Q.I)"や、研究開発に特化した"R&Dブラックジャック"などの既に活動している取り組みと連携して、意識と行動の変革をめざします。また、ステークホルダーである生産協力会社とともに研鑽のための討議を重ね、ものづくりにおける品質向上を図っていきます。そして、2年目を迎えたHORIBA COLLEGE(ホリバカレッジ)をいっそう推進し、たゆまぬ"人財"の育成を進めます。さらに品質・環境・労働安全衛生の統合マネジメントシステム、コンプライアンス(法令遵守)体制などシステム面の充実を図り、バランスのとれた経営を進めます。これらの実践により、製品の品質はもちろん、人財や事業活動そのものの質を向上することに努めてまいります。

私たちが"おもい"をもって真の高品質企業に挑戦し、人々のQOLを高めることこそがステークホルダーの皆様のご期待に応えることにつながるものと信じています。

今後、分析・計測技術が担う役割の重要性は、ますます高まっていくでしょう。私たちは事業による貢献はもとより、科学技術の大切さや魅力を社会に広めていくことも、積極的におこなっていかねばなりません。その面で、多様な機会をとらえて実践している教育支援や次世代育成活動、HORIBA WEBサイト内「Gaiapress(ガイアプレス)」での科学・環境に関する情報発信など、事業活動とは別の側面でのHORIBAらしい取り組みもいっそう追求していきたいと考えています。

私たちの最大の原動力は、皆様からの声にほかなりません。これからも変わらぬ叱咤激励をよろしくお願い申し上げます。

株式会社 堀場製作所
代表取締役会長兼社長

堀場 厚

生物は、生きるため、種を保存するために、独自のセンシング能力を身につけた。

花粉の有無を見極める

紫外線を感じることによって花粉の有無を見分ける眼、そして犬をもしのぐ匂いセンサ。効率的に蜜と花粉を集め続けているミツバチの秘密。それは、小さな体に備わる高性能の視覚と嗅覚にある。



ミツバチ

フクロウ

耳で距離を測る

光を感じ取る視細胞の密度が人間の100倍近くあるコノハズクだが、むしろ驚異的なのは、その聴覚である。コノハズクの耳はわずかに左右非対称の位置にあり、微かな音のする方向だけでなく、距離も測ることができる。

身体の歪みを判別するセンサ

一般に視力の弱いクモ類は、脚の先に生えた細かい毛で空気の振動をとらえ、巣に獲物が掛かったことを感知。さらに、身体全体の歪みを判別する琴状器官という特別なセンサで、どこに掛かったかまでを知るといわれる。

クモ

サンゴと褐虫藻

月光のわずかな紫外線をキャッチ

サンゴと共生する微生物である褐虫藻^{かつちゅうそう}は、月の光に含まれるわずかな紫外線を敏感にキャッチするタンパク質のセンサをもっているといわれる。そして、その反応がサンゴの産卵にも関わっている可能性が指摘されている。



ゾウ



群れをつなぐ探知力

強い絆を誇るゾウの群れ。特にメス同士は、人間には聞き取れない低周波の鳴き声でコミュニケーションを交わす。互いの存在を確かめ、ともに大自然を生き抜く。その術を驚異の探知力が支えている。

アゲハチョウ



種の共存を支える味覚

例えばナミアゲハは、十種類の物質が混ざり合った植物にしか産卵しない。驚くべき味覚センサで産卵する植物を選り分けることで、アゲハチョウは多様に進化し、種の共存を図っている。

「感じる、能力。」

Gaiapress (ガイアプレス) 生物の不思議、自然の素晴らしさに学びたい。

HORIBAが、インターネットの黎明期である1996年から展開するWEBサイト「Gaiapress」。ここでは多彩なコンテンツを通じて、実は私たちの暮らしや企業活動に欠かせない分析・計測技術やセンサーの価値、そして可能性について発信を続けています。「なぜ?」と思うことから科学は発展しました」をコンセプトに、その時々々の社会の関心事についても敏感にとらえ、内容を充実させながら、読者の疑問に答えているのが特徴です。1997年、地球温暖化防止京都会議を機に

「Gaiapress」上で、「動物かんきょう会議」をスタート、WEBサイト「動物かんきょう会議プロジェクト」として独立した後もコラボレーションを続けています。当WEBサイトは、世界各地から集まった個性豊かな動物たちとともにおもしろおかしく環境問題について考えることを通して、子どもたちに考えることの楽しさを伝えていきます。このコンテンツを原作に、TVアニメ「動物かんきょう会議」(NHK教育テレビ)が生物多様性名古屋会議を控えた2010年3月から放映開始されました。



また、「Wonder CHANNEL」では、動物や昆虫、植物がもつ不思議なセンシング能力をクローズアップ。生命が生きていくうえにおいて、「感じること」「はかること」がいかに重要なかを多面的に紹介しています。

多様な分析・計測技術で社会とともに

安全で健康な暮らしの維持、省エネルギーや排出抑制、新エネルギーの研究開発、持続可能なものづくり。

これらは、分析・計測機器で正確なデータを把握することから始まります。

HORIBA は多様な製品の開発とサービスの提供を通じて社会と関わっています。

HORIBA Automotive Test Systems

自動車開発を支え、持続可能な社会の構築に

自動車排ガス測定装置は、世界中の自動車メーカーや認証機関でエンジンの研究開発や排ガス規制の認証試験に幅広く利用されています。排ガス中の一酸化炭素や窒素酸化物、炭化水素などを測定することで、大気への排ガス影響抑制に寄与しています。1970年代前半からいち早く各国の排ガス規制に対応し、現在も超低排出ガスのエンジン研究開発などに欠かせません。HORIBA Automotive Test Systems の製品は、自動車開発の現場から持続可能な社会づくりを支えています。



自動車排ガス測定装置



エンジンテストシステム
確かな性能のエンジンや
部品の開発に



ドライブレコーダー
危険運転の防止と
燃費効率の向上に



X線分析顕微鏡
非破壊元素分析で
品質管理、鑑定、捜査に



顕微レーザーラマン分光測定装置



ナノ粒子解析装置
ナノ粒子を複数要素で解析、
新薬開発に



工業用 pH 計
製造工程や排水の監視、
品質管理に



マルチ水質チェッカー
湖沼・河川などの
水質測定で環境保全に



食品安全性の検査試薬
残留農薬やカビ毒検出など
食の安全に



グルコース分析装置
血糖値管理、データに
基づく診療に



マスフロー
コントローラ
半導体製造工程における
流体制御で IT 産業発展に



全自動薄膜計測システム
太陽電池用大型パネルの
品質管理、歩留まり向上に

光ファイバ式
薬液濃度モニタ



煙道排ガス測定装置



自動血球計数 CRP 測定装置



HORIBA Process & Environmental

地球環境保全と産業プロセスの改善に

火力発電所では燃焼時に排出される排ガスを煙道排ガス測定装置で測定しています。排ガス中の窒素酸化物等の大気汚染の要因となる物質を休みなく連続測定することで有害物質の排出を厳格に監視、制御しています。HORIBA Process & Environmental の製品は、環境モニタリングやあらゆる産業プロセスを監視し、異常値を発見する「目」として、地球環境保全と産業の発展を支えています。

HORIBA Medical

身近な医療機関でデータに基づく診療の普及に

自動血球計数 CRP 測定装置で血液中の白血球や、細菌などの感染によって増加する特徴をもつタンパク質の数を調べることで、重大な感染症などの早期発見が可能になります。早期の診断で以後の検査の要否を適切に判断することができるうえに、微量検体での検査が患者の負担軽減に役立ちます。HORIBA Medical の製品は、診療所など身近な医療機関でデータに基づいた診察を受ける環境づくりに役立っています。

HORIBA Semiconductor

IT・エネルギー産業を支えて生活を豊かに

高性能な半導体を一定の品質で製造するため、製造プロセスでは複雑な工程管理のもと厳しい検査がおこなわれています。その中で、薬液濃度モニタは洗浄液などの様々な薬液の濃度をモニタリングしています。これにより、洗浄液の無駄を省き、適正に使用されることで製品の歩留まり向上を支援しています。HORIBA Semiconductor の製品は、半導体製造や太陽電池など、現代の IT 産業やエネルギー産業を支え、私たちの生活を豊かにしています。

HORIBA Scientific

未知の探求や新発見、新技術の開発に

ラマン分光測定装置は、最先端のバイオテクノロジーやナノ領域の研究に使用されています。ラマン分光法による分析は微細な分子構造の解析に大変有効な分析法で、二次電池など新素材の解析やナノマテリアルの研究には欠かせません。HORIBA Scientific の製品は、未知の物質の素材や構造、挙動の解明など、未踏領域の研究や新技術開発を支えています。



「薬を使わない医療」により小児医療最大の問題の解決をめざす

【対談】にしむら小児科 西村龍夫医師 × 堀場製作所 杉山庸子

核家族化の進行、子どもの減少などを背景に、子育ての孤立化、育児不安の拡大が叫ばれて久しい。それは小児科医療の現場にも影響を及ぼしている。にしむら小児科の院長である西村龍夫医師に、HORIBAの医用システム事業推進部で製品企画の仕事をしている杉山庸子が、現在の小児医療の問題点についてお聞きした。

「治療より診断」「投薬より説明」が大切

杉山 「にしむら小児科」は、開業から11年が経過されましたが、その間、患者さんやそのご家族が求めるものに変化はあるのでしょうか？

西村 インターネットなどが普及した関係もあり、親御さんの医療に対する知識が豊富になってきましたね。診療方針について積極的に質問する方もいらっしゃいます。

杉山 確かに私も子どもが病気になったときには、インターネットで病気について調べます。医療に関係する仕事をしていることもあり、テレビ番組で薬や病気の特集を放映するときは必ず見えています。

西村 そうですね。ただ、テレビ番組では死亡例や重症例だけが報道されがちなので、注意が必要です。一方的な情報は、かえって親御さんの不安感

を増す結果になります。今、私たちには、できる限り「なぜこの症状が現れるのか」という理由を示した説明が求められます。

杉山 子どもが急に熱を出すとかあわててしまいますが、しっかりと説明していただくと安心することができます。ところで先生はかねてより「投薬よりも説明が重要だ」ということを明言されていますね。

西村 はい。これまでの小児医療では、例えば「発熱患者には抗生物質を投与する」という診療が一般的でした。実際、親御さんもお薬が出ると安心されますしね。確かに細菌感染症の場合には抗生物質が有効なのですが、発熱の原因の多くはウイルス感染であり、抗生物質は効果がありません。私自身は不必要な患者への抗生物質の投与をなくしたいと強く思っているんです。例えば杉山さんは、子どもの頃、風邪のたびに病院にかかってい

ましたか。

杉山 私は祖母と同居していたので、風邪ぐら이었다ら「そんなのは寝ていれば治る」なんて言われた思い出がありますね(笑)。ところが、今、我が家は母の方が心配性なんです。大事な孫を預かっている、という気持ちが強からだと思うのですが。私も仕事をしているので、ほかのお母さん方と情報交換をする機会も少ないです。

西村 育児不安の度合いは強まっている、というのが率直な印象です。核家族化や少子化のほか、センセーショナルな医療情報による影響もあるでしょう。多様な情報が発信されること自体は良いのですが、特別な事例が一般的なもののように伝わると問題です。医師も極度に不安感の強い患者さんや親御さんには、どうしても過剰に薬を処方してしまいがち。子どもに薬を投与し続けていると、親御さんの方が「薬依存症」に陥ってしまうんです。医師にかかると、何か薬をもらわないと納得しない人が多い。特に、抗生物質の処方箋を医者

者に要求してくる方は多いです。私はこれが現在の小児医療の最大の問題だと思っています。

杉山 特に、母は、「早く病院に行って、とにかく薬をもらって来なさい」「医者のお薬が一番よく効くんだから」って。大事な孫にもしもの事があつたらいけないという気持ち強いのでしょうか。私も、早く薬で治るものなら欲しいです。

西村 親御さんのそういった行動は、これまで薬が必要だと教育されてきた結果です。今、小児科医がおこなうべき医療は「治療ではなく診断」「投薬ではなく説明」というのが私の考え。薬に頼りすぎる状況を変えていくことが、ひいては親御さんの「子育て力」を伸ばすことにつながると思っています。

データという根拠が正確な診断を支える

杉山 「治療より診断」「投薬より説明」という先生の考えには、「えっ、そうだったんですか?」と新鮮であり驚きです。

西村 発熱やウイルスによる風邪の多くは、自然に治ることをじっくり説明するわけです。「風邪を治す薬を出しますよ」というのでなく、「自然に治りますから一緒に治していきましょう」と励ます。それを繰り返して、子どもに熱が出たときの対処法や「こういう経過で治る」ということを経験してもらうのです。そして、次に同じ病気になれば病院に来る前に、家庭で対処できるようになればいいと思います。

杉山 何かのときに先生がいてくださる安心を感じつつも、病気のたびに小児科に走って薬を求め

るのではなく、家族で乗り越えるということですね。

西村 そうです。私は抗生物質に限らず、必要のない薬はなるべく処方しません。ただし「診断」と「説



大阪府柏原市の閑静な住宅街にある「にしむら小児科」。地域医療の拠点として子どもたちの健康と親御さんの安心を支える(写真上)。院内の壁には、「かぜの常識」「不必要な抗生物質は有害です」など、親御さん、患者さんを啓発するポスターが多く貼られている(写真左)。

明」には、その根拠が不可欠です。

杉山 そのような先生が増えているのでしょうか。現在、若い世代の開業医や救急現場などで、迅速かつ簡便におこなう検査および検査機器の普及も進んできています。

西村 おっしゃる通りです。所見による判断がもちろんベースですが、そうした機器による検査データが、もうひとつの重要な根拠になるんです。コンパクトな検査装置は、我々のような開業医にとってはとても有効なツールです。

杉山 先生が患者さんの傍らで迅速に検査できる装置を院内に整備されたきっかけは、どんなものだったのですか。

西村 勤務医時代は、発熱の患者さんが来院すれば抗生物質を必ず投与していました。発熱の原因の多くがウイルス感染であることは知っていましたが、先輩や同僚も同じように抗生物質を処方していたので、疑問を感じることはなかったんです。しかしMRSA^{*1}やPRSP^{*2}などの耐性菌(抗生物質が効かない病原菌)感染患者を診る機会が増え、市中にも耐性菌が蔓延している事実を目の当たりにして危機感を抱きました。耐性菌というのは、抗生物質の過剰な投与によって生み出されたものです。そうしたなかで徐々に迅速な検査、そしてそのデータの重要性を意識し始めました。

杉山 にしむら小児科では、血液検査と炎症マーカー^{*3}を同時に測定できる検査機器を使用されていますね。

西村 基本的には、親御さん、患者さんに「安心の根拠」を提供するために活用しています。ただ、風邪かなと思い検査をしたらすごく悪かったというケースもあります。以前、発熱で来た1歳のお子さんがいたのですが、はじめは突発性発疹やウイ



杉山庸子 すぎやま ようこ 堀場製作所 医用システム事業推進部 事業推進チーム 神奈川県出身。1997年入社。医療用検査機器の製品企画を担当している。3児の母でもある。

安心の根拠になるんです

ルスによる風邪かと思っていました。ところが血液検査をしたら白血球の数が3万5000もある(通常は1万以下)。これはおかしいということで、血液の培養をおこなったら菌血症だった。菌血症は、細菌感染ですから抗生物質の投与が必要です。放っておくと、場合によっては髄膜炎を起こし、命にまで関わります。

杉山 その場で検査することで、すぐに異常を察知することができたんですね。

西村 そうです。菌血症にかかりやすいのは小さな子ども。つまり言葉で自分の症状を表現することができない年齢層です。ご紹介したのは稀な例ですが、このように命に関わるケースでも検査やデータが診断の役に立ちます。

検査データは発熱診療の地図

杉山 母親として3人の子どもを育てていますが、子どもはいつ熱を出すかわかりません。でも、仕事で会社を休むことができない状況もあり、すぐにお薬に頼ってしまいます。それに、お薬をもらって帰ってくると、おじいちゃん、おばあちゃんが安心という満足するんです。でも、その考え方は間違っていたのだと思うようになりました。

西村 そういっていただくと、こちらもお話のしがいがあります。もう少し続けさせていただくと、本当に子どもに必要なのは「予防医療」だということです。現在では、悪い病気の多くがワクチンで予防できます。悪い病気は適切に治療しないといけません。風邪ぐら이었다ら抗生物質は必要ありません。熱を出しただけで抗生物質をもらいに病院へ駆け込むようなお母さん、お父さんたちの不安をなくしてあげることが大切なんです。

杉山 実は、子どもたちのかかりつけ医では、血液の検査機器が使われていません。もっと先生のように小さな子どものこと、医療全体のことを本当に考えてくださる先生が増えてくれたらと思います。

西村 悪い病気なのか、自然に治る病気なのかを血液検査でチェックするという考えをもっと浸透させる必要があるのでしょうか。私は「発熱の

リスクマネジメント」が大切だと考えています。風邪に抗生物質をつぎ込むよりも、ちゃんと検査して診断しようじゃないかということです。すぐに抗生物質を投与する医療をつくったのは、基本的に医者側の。そこに何とかして風穴を開けたいと考えています。

杉山 私は堀場製作所の医用システム事業推進部で仕事をしており、新製品の企画をしています。HORIBAに対するご要望がありましたら、ぜひお願いします。

西村 以前に比べると検査機器の技術はずいぶん進歩しました。私自身、こういう装置は喉から手が出るほど欲しかったです。検査データのない診療は、地図をもたずに目的地をめざすようなもの。HORIBAさんの検査機器もとても役立っています。今後のことを考えると、私の使っているコンパクトな装置では白血球を3分^{*4}しか検査できませんが、好中球^{*5}の数を知りたいので、5分^{*4}まで調べられるようになると非常に助かりますね。

杉山 ありがとうございます。本日先生に教えていただいたことは、お薬に頼っていた私には衝撃的なお話でした。お薬に頼らない医療の推進に検査機器が役に立っていることをお聞きし、検査の意義を再認識することができました。検査機器が医療に必要な不可欠であることを認識することで、私たちもやりがいを感じますし、具体的な課題に取り組んでいくことができます。それに自社の製品が、医療の最前線で必要とされているという話



西村龍夫 にしむら たつお にしむら小児科 院長 大阪府出身。県立奈良病院での勤務を経て、1998年に「にしむら小児科」を開業。「抗生物質投与基準と投与数の変遷」などの論文を発表し、薬を使わない小児医療の大切さを訴える。

は、やっぱり大きな活力になります。先生が提唱されている「薬を使わない医療」をサポートするために、私たちもいっそう努力を続けていきます。

*1 Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*; メチシリン(抗生物質の名称)に耐性をもった黄色ブドウ球菌。
*2 Penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae*; ペニシリン(抗生物質の名称)に耐性をもった肺炎球菌。
*3 感染症、外傷などで引き起こされる炎症の診断に用いる血液検査項目の総称。
*4 3分とは、白血球をリンパ球、単球、顆粒球(好中球、好酸球、好塩基球の総称)に分類し、その比率を求めること。5分とは白血球をリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球に分類し、その比率を求めること。
*5 白血球の一種である顆粒球の1つ。盛んな走走運動(アメーバ様運動)を行い、主に生体内に侵入してきた細菌、真菌類を殺菌する。

●Report 医療機器を取り扱う海外グループ会社のCSR活動

フランス南部の都市モンペリエにあるホリバABX社[®]では医療機器を扱うメーカーとして、医療や健康に関わるイベントへの参加を積極的におこなっています。遺伝子性疾患のひとつである囊胞性線維症^{のぼうしじょうひせい}の研究基金を集めるイベント「Virades de l'espoir」(希望へのレース)へは2003年より毎年参加をしています。また、スポーツをしたいと願う障がい者へ競技用車椅子を贈ることを目的にしたハーフマラソンイベント「Les 20 Km de Montpellier」(モンペリエ20キロマラソン)へも参加を継続しています。

※臨床検査用機器・試薬の専門メーカー。1996年にグループ会社の一員として迎え入れました。

「Virades de l'espoir」に参加するホリバABX社の社員たち

ステークホルダーの皆様とともに

HORIBAの分析・計測技術は、学術研究やあらゆる産業のマザーツールとして、エネルギーや環境保全、健康、安全を支えています。私たちは、お客様からのご要望に応える製品・サービスを提供することにより、持続可能な社会の構築や人々のQOL(クオリティ オブ ライフ)向上に貢献することができますと考えます。

そのため、基礎技術・製品化技術を極限まで追求するとともに、サプライヤーと切磋琢磨し、お客様のニーズに応える製品・サービスを高い品質でタイムリーに提供。社会の要請や期待に応えていく

お客様とともに

お客様にHORIBAの製品・サービスを使っていただくことによって、持続可能な社会の構築やQOLに寄与することができます。



小児医療における血球計数装置の役割とは
User's Voice (P09)

オーナーとともに

オーナー(株主)・投資家の皆様に対して、適正な利益の分配をおこない、迅速、公正な情報発信で、コミュニケーションを図り経営の透明性を高めています。

Action
株主懇談会、IR説明会

サプライヤーとともに

長年の信頼関係をベースに生産技術を切磋琢磨し、ものづくりにおいても真の高品質企業へ挑戦します。

Action
HORIBAグループ洛楽会/生産協力会社との研鑽会



研鑽会で提案され開催されたサプライヤーによる技術展示会

ことをCSR(企業の社会的責任)の基本と考えています。

同時に、分析・計測技術を通して見えてくる、地球や自然の偉大さ、科学技術の魅力についても積極的に情報を発信し、環境保全活動や教育支援においても社会との絆を深めています。

社は「おもしろおかしく」のもと、人財育成によって技術力だけでなく人間力を育み、常に自らに挑戦する気概に満ちた、オープンでフェアな企業文化を醸成し、CSRを実践します。

社員とともに

仕事へのプライドとチャレンジマインド、人財育成と環境整備で社は「おもしろおかしく」を実現します。

Action
人事制度・3つの基本方針(オープン&フェア/加点主義/コミュニケーション) / HORIBA COLLEGE / きめ細かなキャリア別研修/次世代育成支援/ファミリーフレンドリー

社員による社員のための企業内大学「HORIBA COLLEGE」。それぞれ授業内容が工夫されている



社会とともに

HORIBAの事業の基礎にあたる、科学技術、環境保全をコアにして、科学・技術学習や文化・スポーツなど次世代への教育支援に積極的に取り組んでいます。

Action
多面的な教育支援活動/文化・スポーツ支援活動/環境・自然・宇宙・科学情報サイト「Gaiapress(ガイアプレス)」/地域環境保全活動

生物多様性と分析技術をテーマにした出前授業



京都代表少年サッカーのフランス遠征をサポート

HORIBA発・グローバルマネジメント

意識と行動を変革する「ブラックジャック活動」

社員の意識・行動の変革を重視する当活動においては、新入社員による「あいさつ運動」から品質・コスト・納期改善まで、テーマに制限はありません。自分の"おもい"を全社に表明し、組織や年齢に関係なく賛同者を巻き込みながら、自ら描いた"ありたい姿"の実現に向け活動します。12年が経過したテーマは、700超。今やHORIBA流のマネジメントとして、品質改善、スピリットの醸成、人財育成、組織の活性化など、すべてのビジネスの基盤として世界中のHORIBAグループで展開されています。

1年間の最優秀活動を選考するBJ Award world cup 最終プレゼンテーション。2009年はシンガポール代表が金メダルを受賞



ブラックジャック活動のシンボル・フィギュア。社員一人ひとりの"おもい"が強固につながり、成長する様子を表す

コーポレートガバナンス・内部統制

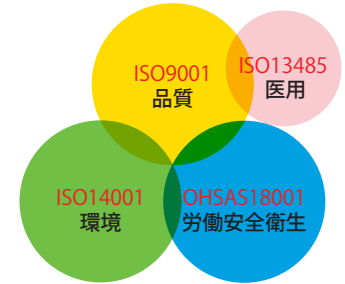
HORIBAでは、経営方針・目標・戦略等の重要事項に関する経営の意思決定・監督・監視機関として取締役会を、社長を補佐する業務執行機関として常勤取締役会、オペレーション会議、経営会議、コーポレートオフィサー(執行役員)制度を設置しています。監査・モニタリング機関として監査役会を設置するとともに、社長直属で他部門から独立した監査部門が、(株)堀場製作所およびグループ会社における業務活動の適法性などを検証。同時に改

善のための助言、勧告をおこなっています。また、内部監査および監査役監査、会計監査の相互連携においては、監査結果について適宜情報交換を実施。適正なマネジメントの推進体制を確保しています。内部統制については、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を制定し、法令等の遵守と損失の危機の管理体制を確立し、正確性、信頼性を確保すべく運用しています。

統合マネジメントシステム(IMS : Integrated Management System)

HORIBAでは、図の通り、品質、環境、労働安全衛生を統合したマネジメントシステム(IMS)に、医療機器のための品質管理を加えてマネジメントをおこなっています。(株)堀場製作所でのIMS運用は2004年に開始し、グループ会社においても2011年度までにその構築、運用を計画しています。国内では、2008年4月に(株)堀場エステックが、2009年12月に(株)堀場アドバンスドテクノがIMSの認証を取得。海外においても、2011年度までに主要生産拠点のすべてで品質ISO9001および環境ISO14001の認証取得を予定しています。また、(株)

堀場テクノサービス 本社CS本部が、(独)製品評価技術基盤機構認定センターから「ISO/IEC17025:2005(ASNITE 0033C 排出ガス測定装置校正)の校正事業者として2009年8月に認定を取得しました。



ガイアレポート
Gaiareportとは

ガイア
Gaiaはギリシャ神話に出てくる大地の繁栄と自浄をもたらす地球の母なる神です。分析計・環境計測機器メーカーであるHORIBAグループは、分析・計測事業で持続可能な社会の構築に貢献したいと考えています。この決意を込めて、当社のCSRのコミュニケーションツールとしてのホームページを「Gaiapress(ガイアプレス)」、CSR報告書を「Gaiareport(ガイアレポート)」とそれぞれ命名しています。HORIBAは分析計測の目で地球環境を見つめています。

くわしい情報はWEB版データ集で

CSR活動の詳細なデータはWeb版として公開され、より便利に使いやすくなりました。興味のあるキーワードやカテゴリーから検索すると、関連する情報をまとめて閲覧することができます。
くわしくはWeb版データ集のページをご覧ください。

<http://gaiareport.horiba.com/ja/>

HORIBA
Explore the future

株式会社 堀場製作所

〒601-8510 京都市南区吉祥院宮の東町2
TEL: 075-313-8121 (代表)
FAX: 075-321-6621
URL: <http://www.horiba.co.jp/>
お問い合わせは、コーポレートコミュニケーション室まで

紙の使用を大幅に
削減しました

「Gaiareport(ガイアレポート)」は2009年版より冊子版とWEB版で構成しています。これにより冊子に使用する紙の量を大幅に削減することができました。内容は堀場製作所のCSR活動のエッセンスをぎゅっと凝縮し、より多くの方々の手にとっていただけるものになっています。

●ホームページでの開示情報

環境・社会活動 → <http://www.horiba.com/jp/social-responsibility/>

IR情報 → <http://www.horiba.com/jp/investor-relations/>

Gaiapress(ガイアプレス) → <http://www.jp.horiba.com/sensorium/>



この印刷物
1枚当たりの
CO₂排出量
約120g

この印刷物は、「計画的に管理された森林」の木材を利用したFSC認証用紙を使用し、琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付印刷用紙びわ湖環境ペーパーを採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキを使用し、印刷は有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。更に製造過程で排出されるCO₂をCO₂を通じカーボンオフセットしています。

カタログNo. HRA-0059A

Printed in Japan H2-M(EI)722

Explore the future

Automotive Test Systems | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific

HORIBA